

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

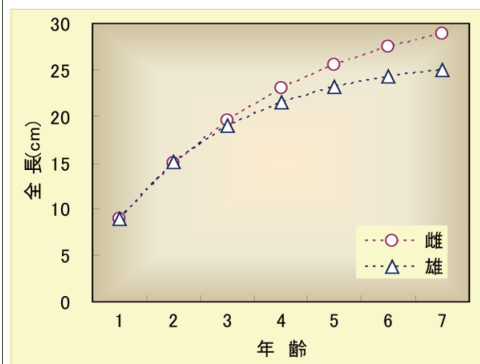
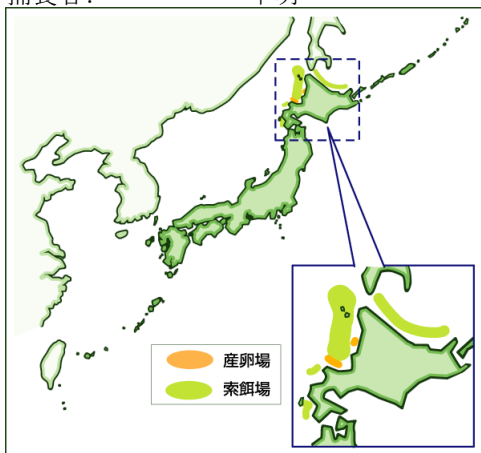
系群名 北海道北部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳以上
成熟開始年齢: 雄2歳(50%以上)、雌3歳(50%以上)
産卵期・産卵場: 5～9月(中心は7月)、主に奥平沖(水深60～80m)と増毛～留萌沖(水深50～60m)
索餌期・索餌場: 北海道の日本海側～オホーツク海側の陸棚域と水深300m以浅の陸棚斜面
食性: 成魚はイカナゴ、タラ類幼魚、その他の小型魚類、オキアミ類、クモヒトデ類、多毛類、イカ類、エビ類、二枚貝類
捕食者: 不明

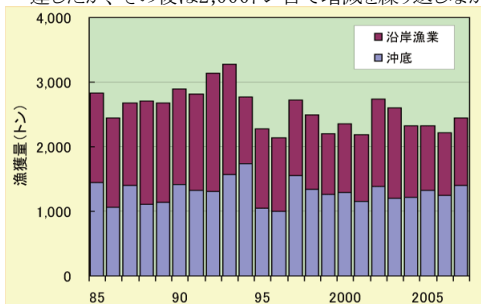


漁業の特徴

ソウハチ北海道北部系群の大部分は、沖合底びき網漁業(沖底)と刺し網漁業によって漁獲されており、沖底は主に9～4月に索餌群を、刺し網漁業は主に4～7月に産卵群を漁獲している。日本海に比べると、オホーツク海における漁獲量は非常に少ない。

漁獲の動向

沖底の漁獲量は、1982年以降概ね1,000トン台で推移しており、2007年は1,397トンであった。沿岸漁業の漁獲量は、1985～1993年には1,500トン付近で推移していたが、1994年以降は1,000トン付近で推移しており、2007年は1,049トンであった。沖底と沿岸漁業を合わせた漁獲量は、1987年以降増加傾向を示し、1993年には約3,300トンに達したが、その後は2,000トン台で増減を繰り返しながら推移しており、2007年は2,446トンであった。

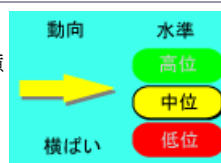


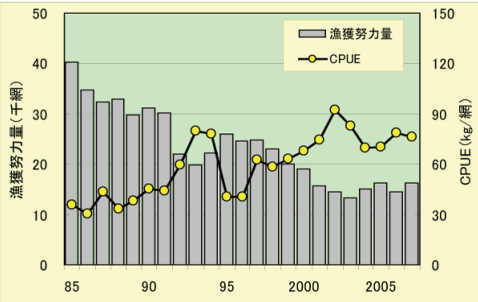
資源評価法

CPUEは沖底についてのみ算出可能であるが、1993、1994および近年における沖底のCPUEの増加は、ソウハチが主に分布する海域での操業の増加によるものと考えられている。また、主要な漁業である沖底と刺し網漁業では漁場や漁期が異なることから、沖底のCPUEを本系群全体の資源量の指標とすることは妥当ではないと推察されるため、漁獲量を基に資源状態を判断した。なお、北海道立水産試験場(北水試)は、本系群についてチューニングVPAによる資源量推定を行っているため、その結果も参考とした。

資源状態

過去23年間(1985～2007年)における漁獲量の平均値を50とすると、2007年の漁獲量は47に相当するため、資源水準は中位と判断した(低位:～30、中位:30～70、高位:70～)。また、漁獲量は近年減少を続けていたが、2007年には増加したため、資源動向は横ばいと判断した。なお、北水試が推定した資源量は、1985漁期年(8月1日～翌年の7月31日)以降比較的安定して推移している。





管理方策

資源量は1980年代後半以降比較的安定して推移しており、資源状態も中位で横ばいと判断されたため、現状の漁獲圧を継続しても、資源水準が低位になる可能性は低いと推測される。よって、現状の漁獲圧を継続することにより、現在の資源水準(中位)を維持することを管理目標とした。そのため、過去5年間(2003～2007年)の平均漁獲量をABClimitとし、それよりやや少ない不確実性を見込んだ漁獲量をABCTargetとした。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,400トン	Cave5-yr	—	—
ABCTarget	1,900トン	0.8Cave5-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 漁獲量を基に資源状態を判断
- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 資源量は1980年代後半以降比較的安定して推移

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲圧を継続しても、資源水準が低位になる可能性は低いと推測
- 現状の漁獲圧を継続することにより、現在の資源水準を維持することを目標としてABCを算定

資源評価は毎年更新されます。